



### 3. 活動内容



#### (1) 1年間の主な活動

本校では、作手地区の自然や文化を愛し、将来作手地区に貢献できる生徒を目指して、近隣高校との連携型中高一貫教育に取り組んでいる。中高教員による「ティームティーチング」（英語、数学）、高校教員による地域の山野草「サギソウ」の栽培などを行っている。外国語活動も重視し、毎週木曜日を「英語の日」とし、日常生活の会話はできるだけ英語で行うようにしている。総合的な学習では、「地域」を題材とし、地場産業、福祉、地域の環境保全、歴史遺産の学習に取り組んでいる。

新城市は東海地震の地震防災対策強化地域、南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されている。学校や職場、地域で避難訓練が行われ、防災意識も比較的高い。本校でも、年間3回の避難訓練を実施している。

#### <5月>

##### ○地域行事「古城まつり」への協力 ～作中和太鼓の演奏～

作手地区に存在する戦国時代の武将に関わる山城を舞台に、新城市内外の多くの人に参加を呼びかけ、地域活性化を図る取り組みの一つが「古城まつり」である。本校「作中和太鼓」、「弓道部」の生徒も参加し、地域の文化を発信するために協力している。



古城まつり（亀山城址にて）

#### <6月、7月>

##### ○地域清掃活動「クリーンアップ作戦①」

学校周辺の主要道路の清掃活動を全校で行い、地域の環境美化に努めた。

##### ○林業体験活動（1年生：総合的な学習）

作手地区は、古くからスギ、ヒノキの植林が進められ、林業が主要産業として位置付けられていた。本校も学校林を5ヶ所保有しており、1年生が学校林の間伐作業などの体験を行っている。当日は、県林務課の職員、地元の林業家、保護者の協力を得て、林業について講義、間伐作業、材木の運搬などを行い、林業についての理解を深めている。



間伐したヒノキの樹皮をむきます

##### ○カヌー体験（全学年：体育）

学校近くの湖でカヌー体験が行われている。管理団体の協力を得て、全学年でカヌー体験を実施した。作手地内には3本の川、ため池などがあり、水難事故も心配される。この体験を通して、水に親しむとともに、その危険性についても生徒は体感している。



まずは基本のパドル操作を練習

## < 8 月 >

### ○湿原観察（総合的な学習Ⅱ：環境グループ）

本年度は向山湿原を観察対象として活動を行った。夏休み中、1週間おきに2～3名のグループで湿原の観察を行った。自然の中でサギソウがどのように開花しているかを調査している。本年度は例年より開花が早く、8月上旬までが見頃となった。



湿原観察（環境グループ）

### ○カヌー体験

（体育委員会主催：夏のスポーツレクリエーション大会）

7月に続き、管理団体の協力を得て、カヌー体験を行った。縦割り班対抗でカヌーを使った様々な競技で対抗戦を行った。自由の利かない水上での移動、普段と異なる視界に戸惑いながらも、全校生徒が水上での楽しいひと時を過ごした。また、地元の食材を使ったバーベキュー、非常食の試食なども行った。



チーム対抗戦スタート

## < 5～10月 >

### ○地域との交流（地域理解）

自分たちが暮らす地域について知り、大切に思う気持ちを育むことを目的に「総合的な学習」を中心に地域と関わる活動を取り入れている。

- ・職場体験学習（2年生：総合的な学習）

キャリア教育とも関連づけ、地域のさまざまな事業所で職場体験をさせていた

- ・福祉施設訪問（3年生：総合的な学習）

地域の課題をつかむため、老人介護施設を訪問し、朗読、カードゲーム、聞き取り調査を行った。

### ○環境整備 ～総合的な学習「環境」～

チューリップの球根掘り、花だんを耕し施肥、夏・秋花だんへの苗の定植、草取り、追肥などの作業に取り組んでいる。シバザクラの挿し芽など、自分たちで苗を育てる活動も行った。学校近隣の湿原の観察、環境整備活動も実施している。

## < 11月 >

### ○文化祭での情報発信（総合的な学習の成果発表、地域交流体験「絆講座」）

- ・総合的な学習の成果発表

これまで学習してきた内容を保護者をはじめとする多くの地域の方々に報告した。1年生「林業」について、2年生「職場体験学習」について、3年生「地域の交流についての提言」をテーマに発表を行った。

- ・地域交流体験「絆講座」

地域のさまざまな分野で活躍されている方を講師として呼び出し、地域との絆を深めたいと考えている。保護者や地域の方にも参加を呼びかけ、本校の取り組みを外部に発信する場としている。講師については、地域の活性化を目指す団体「作手を考える会」に紹介していただき、5つの講座を開設した。



苔玉づくり（地域の方も参加）



### ○地域清掃活動「クリーンアップ作戦②」

地域行事「つくで祭り」会場の清掃活動を行う。作手地区で最も大きな催し物で、地域の方も楽しみにしていると共に、遠方より参加される方も多い。来場された多くの方が、気持ちよく過ごすことができるように、生徒会が中心となり清掃活動を行っている。



全校生徒で地域の清掃

### ○地域行事「つくで祭り」への協力

～作中和太鼓の演奏、赤十字募金活動協力、地域作品展参加～

特設ステージで、さまざまな催しが行われる中、作中和太鼓の演奏を行った。また、地域福祉団体の要請に応じ、ボランティア生徒9名が、赤十字募金を呼びかけた。別会場で行われる文化作品展には、作手地区のこども園、小学校、中学校、高等学校から生徒の作品が寄せられ展示された。



来場者へ募金を呼びかけ

### ○作中ウォーク

作手地内に北部コース、南東部コース、西部中央コースの3本のコースを設定し、3年間をかけて全てのコースを歩き通す活動である。どのコースも約20kmあり、山あり谷ありの変化に富んだコースとなっている。紅葉を筆頭に、秋の自然に親しみながら、仲間と1日歩く活動は、故郷を知り、仲間との絆を深めるものとなっている。

### <12月>PTA講演会「いざという時のために」(防災)

市役所防災安全課の方をお招きし、宮城県や熊本県に派遣された経験や現地で感じたことを話していただいた。東海地方には大地震が起きる可能性もあり、どのように対応したらよいのか考えるきっかけになった。講演会后、「家族で防災について話し合いました。」と、日記に書いてきた生徒もいた。



災害時に心がけることは

### <3年間を通して>(中高連携によるサギソウ栽培活動)

本校は、近隣の高等学校と連携型中高一貫教育に取り組んでいる。高等学校教員が中学校の授業に参加、中学校教員が高等学校の授業に参加するほか、部活動、体育大会、文化祭、地域作品展での交流や、椎茸栽培、環境保全活動などでの交流を行っている。その中でも、中心的な取り組みとなっているのが、湿原の希少植物「サギソウ」の栽培活動である。



湿原を代表する植物  
サギソウ

- ・1年次<交配、培地づくり、播種>
- ・2年次<移植>   ・3年次<開花、観察>

サギソウは発芽率が低く、その後の生育も環境の影響を大きく受け、限られた範囲でしか生育できない植物である。そこで、サギソウを増やすためには、人の手で環境を整え、効率的に栽培を行っていく必要がある。1年次に広口瓶の中の培地にサギソウの種をまき、



クリーンベンチによる無菌播種

無菌状態で発芽から育苗までを行う。2年次には、数cmに育った苗をポットに移植し、一定の温度で生育させる。そして、3年次に開花を迎える。

生徒が一番緊張する作業は「播種」である。芥子粒のように小さなサギソウの種子を、広口瓶の中の培地に金耳という特殊な器具でまく。その後、広口瓶の口付近をバーナーで加熱殺菌、特殊なシートで密閉する。中学生にとってはなかなかレベルの高い作業で、興味深い体験となっている。

### <3月>

#### ○椎茸栽培実習（1年：総合的な学習）

豊かな山林を活用する取り組みの一つとして「椎茸栽培実習」を行っている。近隣の高等学校の協力も得て、椎茸のほだ木に穴を開け、菌を打ち、収穫までを体験する。収穫までには2年ほどの期間がかかり、自分たちが収穫して食べるというより、後輩のために栽培している。



専用ドリルで穴あけ

#### (2) 活動時間について

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（夏休みなど、休業日を活用）